



令和6年10月16日

「自殺の表現」に関する映像・舞台関係者向け勉強会 ～自殺や自傷に関連する企画・制作・表現を行う際に知っておきたいこと～

令和6年11月8日（金） 13時30分～15時00分 オンライン開催

NHKよりドラマのプロデューサー・ディレクターが登壇

厚生労働大臣指定法人・一般社団法人 いのち支える自殺対策推進センター（東京都千代田区、代表理事・清水康之、略称「JSCP」）は令和6年11月8日（金）、映像・舞台制作・製作関係者等に向けて、自殺や自傷に関連する企画・制作・表現のための勉強会を初めて開催致します。

本勉強会では、NHK メディア総局 チーフ・プロデューサー勝田夏子氏を迎え、主人公の自殺というテーマを扱ったドラマ『空白を満たしなさい』（原作・平野啓一郎、出演・柄本佑×鈴木杏×阿部サダヲ他）の企画・演出・映像化に至るまでのプロセスを紐解いていただきます。また、NHK 大阪放送局 ディレクター後藤怜亜氏は、「死にたい」気持ちを抱えながら生きる主人公を描いたドラマ『ももさんと7人のパパゲーノ』（作・加藤拓也、出演・伊藤沙莉・染谷将太他）の企画・演出を手がけました。取材において「死にたい」気持ちを抱えた当事者の声に耳を傾ける中で見えてきたことや、制作や演出にあたり特に留意した点などについて伺います。

【本勉強会開催の背景：「ウェルテル効果」「パパゲーノ効果」とは】

洋の東西を問わず、歴史的にも文学、演劇、映画、ドラマ、アニメーション、マンガ等様々な表現の中で、自殺や心が描かれることがありました。一方、近年は様々な研究によって、メディア（報道、映画、ドキュメンタリー、ドラマ等のテレビ番組）が自殺リスクを高めたり、逆に自殺を抑止したりする可能性があるという科学的根拠が増えてきており、自殺リスクを高める効果は「ウェルテル効果」*1、逆に自殺を抑止したりする効果は「パパゲーノ効果」*2と呼ばれています。

*1 ゲーテの小説『若きウェルテルの悩み』の主人公名で、失恋に直面して自殺する。ゲーテの小説の出版後、自殺者数が増えたことから。

*2 モーツァルトのオペラ「魔笛」の登場人物パパゲーノが、愛を失って自殺しようとするが、あることを機に自殺を思いとどまることから。

【国内外のガイドライン動向】

WHO（世界保健機関）が2019年に発表したガイドライン「[自殺対策を推進するために 映画制作者と舞台・映像関係者に知ってもらいたい基礎知識](#)」においても、テレビ番組、映画、動画配信での自殺の描写が、模倣自殺につながるなどの研究結果や、とくに若く自殺リスクの高い人は登場人物に自分自身を重ね合わせて、悪い影響を受ける可能性が高いことが報告されています。（同ガイドラインP.5）

また、23年4月に見直された「[日本民間放送連盟 放送基準](#)」においても、かなり踏み込んだ形で、自殺の誘発を避けるための「解説文」が新たに盛り込まれるなど、自殺の扱い等に関する記述が強化されました。

第1条 人命を軽視するような取り扱いはしない。

<解説文（抄）>自殺を取り上げる場合は、視聴者に対する影響を考慮し、報道であってもフィクションであっても慎重に取り扱う。

第48条 自殺・心中は、たとえフィクションであっても取り扱いを慎重にする。

<解説文（抄）>ドラマなどのフィクションはもとより、古典・芸術作品で自殺や心中を美化・礼賛するものも含め、取り扱いは慎重にすべきである。

【本勉強会について】

JSCP では過去7回、メディア・報道関係者向けに「自殺報道のあり方を考える勉強会」を開催してきました。これまで、新聞・テレビ・ラジオ・雑誌・ネットメディア・プラットフォームなどから延べ800人を超える方々にご参加いただき、満足度アンケートでも非常に高い評価をいただいております。

今回初めて開催する**映像・舞台関係者等に向けた勉強会**では、NHK のドラマ制作担当プロデューサー／番組ディレクターをゲストにお迎えし、「自殺」という繊細な事象に関する企画・演出プロセスを共有いただきます。また、主催の JSCP からは、WHO のガイドラインの内容をわかりやすく解説するほか、米国での映画における自殺手段の描写に関する研究など、国内外の最新の分析・エビデンスについてもお伝えします。

近年、配信市場の拡大等により、日本の映画・アニメーション・ドラマの海外進出が目覚ましいことが伝えられています。日本のコンテンツ（IP）が自殺リスクを高める可能性を避けながら世界で広がるよう、舞台・映像表現の関係者のみなさんの参考になる材料を提供したいと考えています。

時間	プログラム *順番は予告なく変更することがございます	登壇者
13:30	開会の挨拶・日本の自殺に関する概況（10分間）	清水 康之（JSCP 代表理事）
13:40	ウェルテル効果を防ぐために —WHO ガイドラインの紹介 「自殺対策を推進するために 映画制作者と舞台・映像関係者に知って もらいたい基礎知識」（15分間）	JSCP
13:55	【事例①】『ももさんと7人のパパゲーノ』事例紹介＋質疑（25分間）	後藤 怜亜 氏
14:20	休憩	
14:23	【事例②】『空白を満たしなさい』事例紹介＋質疑（25分間）	勝田 夏子 氏
14:48	パネルディスカッション（10分間）	後藤氏・勝田氏・清水
14:58	閉会の挨拶	清水 康之

<登壇者 プロフィール>

■勝田 夏子 氏（NHK メディア総局 チーフ・プロデューサー）

1992年 NHK 入局。96年以降、数々のドラマ番組を手がける。主なプロデュース作品に連続テレビ小説『半分、青い。』、『ストレンジャー ～上海の芥川龍之介～』、『今ここにある危機とぼくの好感度について』など。

■後藤 怜亜 氏（NHK 大阪放送局 ディレクター）

2010年 NHK 入局。2016年より主に福祉番組の制作、希死念慮のある方々との取材を継続的に行う。制作番組に『#8月31日の夜に。』、『わたしはパパゲーノ—死にたい、でも、生きてる人の物語—』、特集ドラマ『ももさんと7人のパパゲーノ』ほか。

皆様のご参加をお待ちしております。お申し込みは下記URLまたは右記QRコードから

- 日 時：2024年11月8日（金）13時30分～15時00分
- 対 象：映像・舞台の制作・製作関係者等
- 形 式：オンライン（Zoomウェビナー）
- 参加費：無料



<https://forms.office.com/r/db4ZwN2eSY> **（11月6日（水）17時締め切り）**